

## 7. 木質バイオマス利活用の実態 (28)

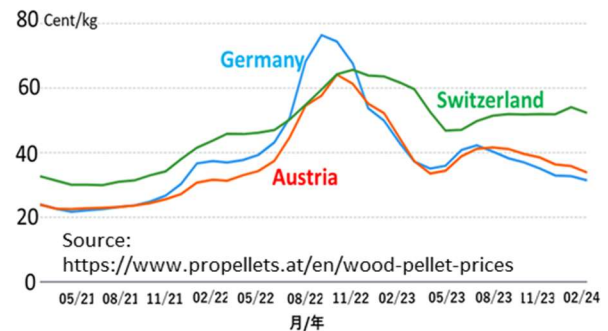
20240302

## ロシア侵攻によるペレット市場の変化

2022年2月のロシアのウクライナ侵攻とそれに伴う制裁は、木質ペレットのエネルギー市場にも大きな混乱を招いた。その状況について Canadian Biomass 紙に掲載された William Strauss 博士のレポート<sup>1)、2)</sup>を要約する。

● ロシア、ベラルーシ、ウクライナのペレット輸出量は、2014年以降急伸し2021年には国際貿易総量の15% (約350万t)にも達した。その大部分(250万t)が西ヨーロッパ向けで、常態的に供給不足気味の欧州市場にとっては掛け替えのない供給源となってきた。しかしロシアのウクライナ侵攻の結果、ロシアやベラルーシから直接輸入はほぼゼロとなった。

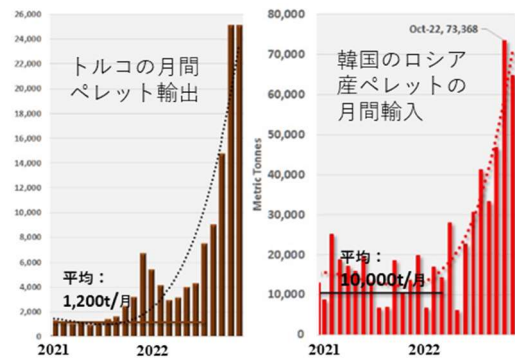
● 突然の供給ストップは欧州のペレット価格を高騰し、8月には工業用スポット価格は2.7倍(168\$/t⇒460\$/t)、秋口には暖房用小売価格はドイツの場合2.8倍(275\$/t⇒770\$/t)の過去最高値を記録した(図表7.31)。ただし電気、ガス、石油の価格も同時に高騰したため熱量単価(単位熱量あたりの価格)は常に安価で優位な状態にあった。(ただし当時わが国では、石油への補助金によりペレット価格の優位性が失われることも度々)。



図表 7.31 欧州のペレット小売価格の推移

● 幸い、22年8月以降欧州の天然ガス価格が大幅に下落したこと、さらに2022年冬の欧州の気候は異常に穏やかでペレット在庫が増えて暖房用ペレット価格は次第に下がってきた。また産業市場でも、ペレット需要の大宗を占める英国の発電需要が予想外の落ち込み(例えば、Teeside CHP Station(出力299MW)の完成の遅れや Lynemouth 発電所(出力130MW×3基)の一時停止など)で、ペレット需給に関する混乱は幾分相殺された。しかしこのような緩和状況は一時的なものとして理解すべきで、事実 Teeside CHP Stationは2024年にはフル稼働に入り、ペレット需要の増加が予想されている。

● 一方、制裁によるロシア産ペレットの動向については、①制裁が発動されるにつれてトルコの輸出は大幅に増加(1,200t/月⇒24,000t/月)し、トルコを経由してEUに「漏れている」可能性が高く、制裁効果に抜け穴のあることが、②韓国は制裁により安価となったロシア産ペレットの輸入を短期間に7倍(10,000t/月⇒70,000t/月)も増大しており、ロシア産ペレット制裁によってもたらされた恩恵を享受していることが理解できる(図表7.32)。



図表 7.32 ロシア制裁の抜け穴と恩恵

1) <https://www.canadianbiomassmagazine.ca/2023-wood-pellet-markets-outlook/>

2) <https://www.canadianbiomassmagazine.ca/global-wood-pellet-markets-2023-in-review-and-why-industrial-wood-pellets-are-key-for-the-future/>